

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No410
(次期学習指導要領にむけた審議まとめの方向性)

⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程 ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるかー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

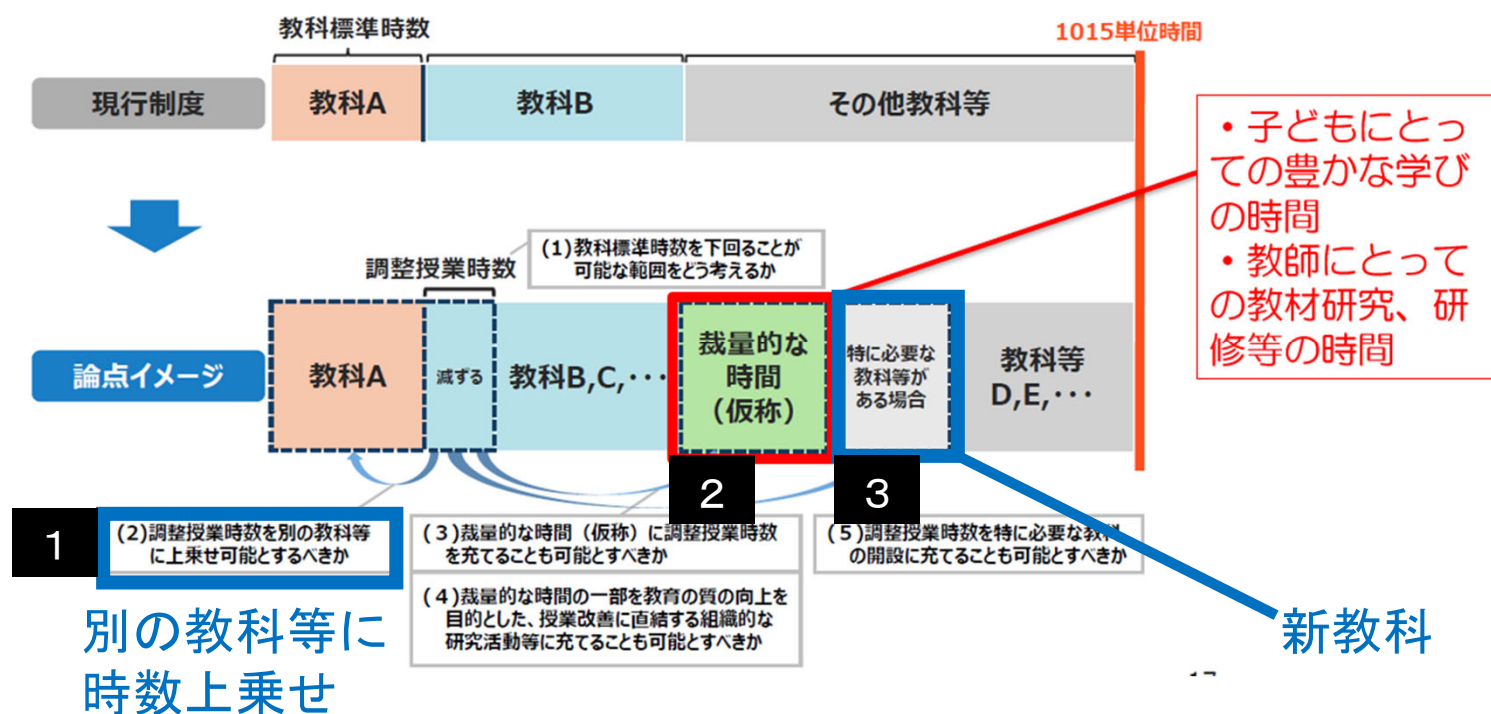
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

審議まとめの方向性

- ①「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか
- ②「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？
- ②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー
- ②補足Part2 現場の授業力に配慮して高次の資質・能力は評価せずー現実対応、それで現場は変わるか？
- ③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ
- ④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？
- ⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのよう埋めるか

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性(調整授業時数制度)

『論点整理』 (2025年9月25日)



- (1) 多様性の包摂
- (2) 個に応じた指導
- (3) カリキュラム・マネジメントの一層の推進
- (4) 教師にとっての教材研究、研修等の時間

高校では単位の組み替え

(≡新教科)

74単位→148単位

(例) 6単位→5単位

『教育課程部会総則・評価特別部会』
(令和8〔2026〕年2月19日)

(週当たり授業コマ数)

1 2 3 ... 28 29 30 コマ



2 50分×17コマの授業をもって
1単位とすることを標準とする

1 科目の組み替えの具体的な
内容や要件をどのようにするか

5 その他柔軟な教育課程の促進策として、
①学校設定教科・科目の単位数上限の
在り方をどう考えるか
②週当たり授業時数の示し方をどうするか



免除・振替

1 2 3 ○ コマ

3 各科目の単位数を一層柔軟に設定でき
るようになるためどのような方策が必要か
(減単の在り方)

4 科目の履修免除の具体的な要件、
対象科目、運用をどのようにするか

6 これらの仕組みの不適切な運用を防ぎ、国・都道府
県・各学校が必要に応じて改善を図り、質を確保する
仕組みをどのように設けるか

(取組例)

・物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎を組み合わせ「理科基礎」、化学基礎と化学を組み合わせ「化学総合」、数学Ⅱの中で数学Ⅰの一部の内容を扱う。

・論理国語の一部と理数探究を組み合わせ「アカデミック・プレゼンテーション」、データサイエンスで探究を行う学校設定科目で情報Ⅰの内容を扱う。

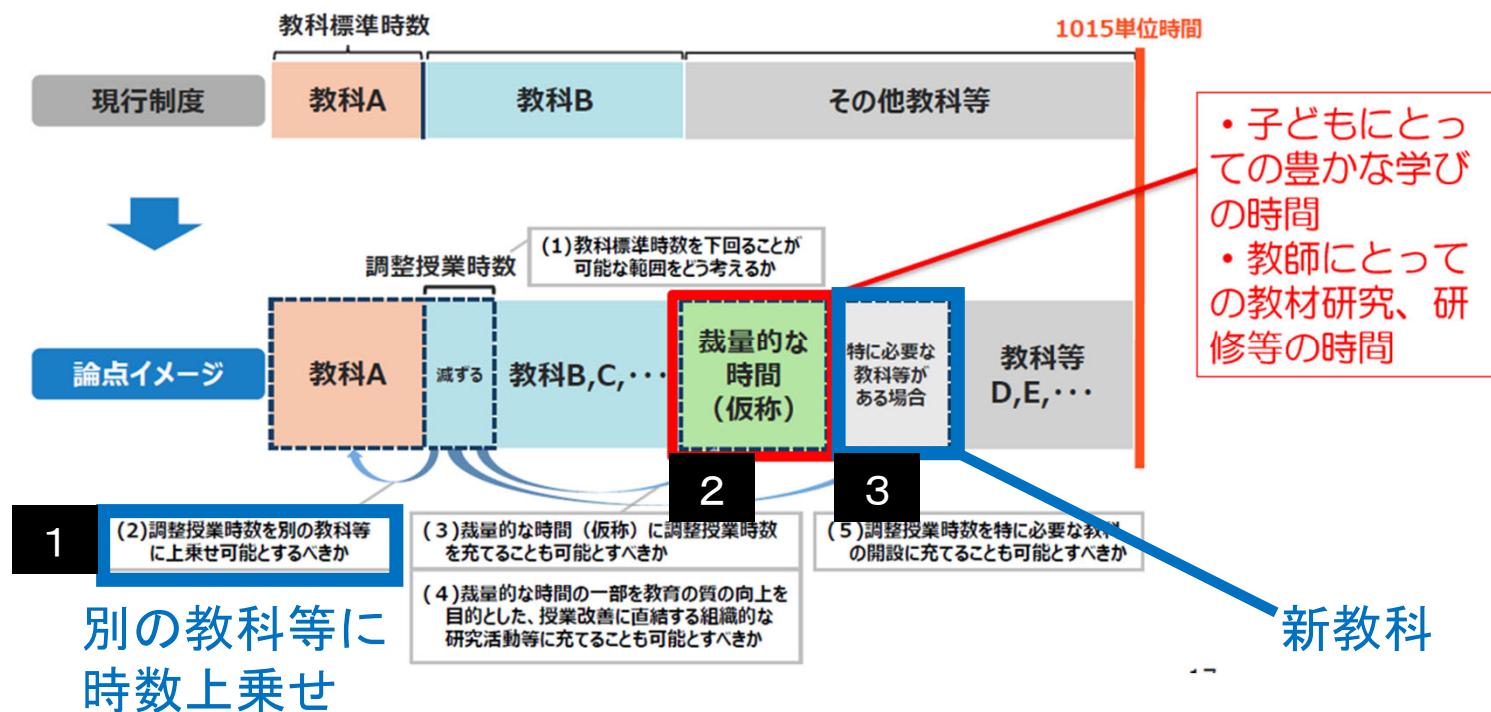
・公共にグローバルの観点からの趣旨・内容を強化し、「グローバル公共」など

・数学Ⅱに義務教育段階の学び直しを加え、「数学基礎」など



しかし、 義務教育段階の柔軟な教育課程を踏まえることは暗に前提とされている

『論点整理』（2025年9月25日）



- (1) 多様性の包摂
- (2) 個に応じた指導
- (3) カリキュラム・マネジメントの一層の推進
- (4) 教師にとっての教材研究、研修等の時間

専門高校の **課題研究** に総合的な探究を組み込む > SSHも同様

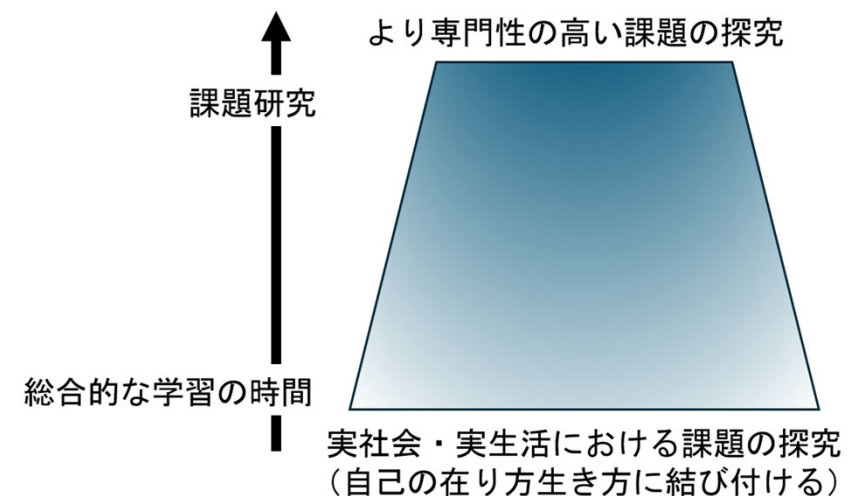
- 大学や産業界と連携した高度な課題研究

(問題)

- 課題研究では、課題や問いは外から与えられる
- そこでは、自己の生き方在り方に繋がる課題や探究よりも、実社会実生活、学問的な問題の解決に力点が置かれる

(次期改訂に向けて)

- 柔軟な教育課程として総合探究（自己の在り方生き方）を課題研究の導入として位置付ける



教育課程部会>産業教育WG資料(2025年12月16日)を改変→

No406

③ 総合的な学習・探究の改善点

情報教育とのカップリングからマイ探究(個人探究)へ

ここを押さえよう！
次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)

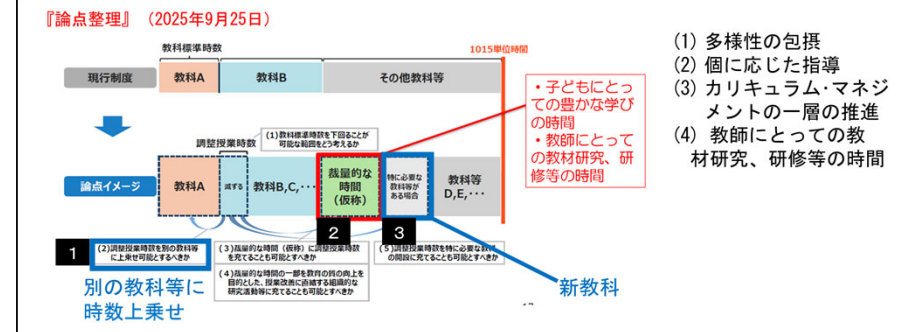


高校の柔軟な教育課程の留意点

① 義務教育段階の「裁量的な時間」に相当するものは高校でも教育課程全体で取り組む

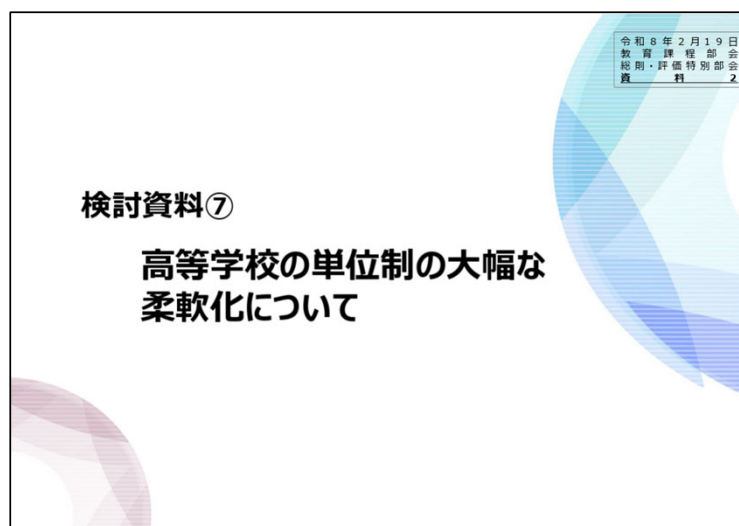
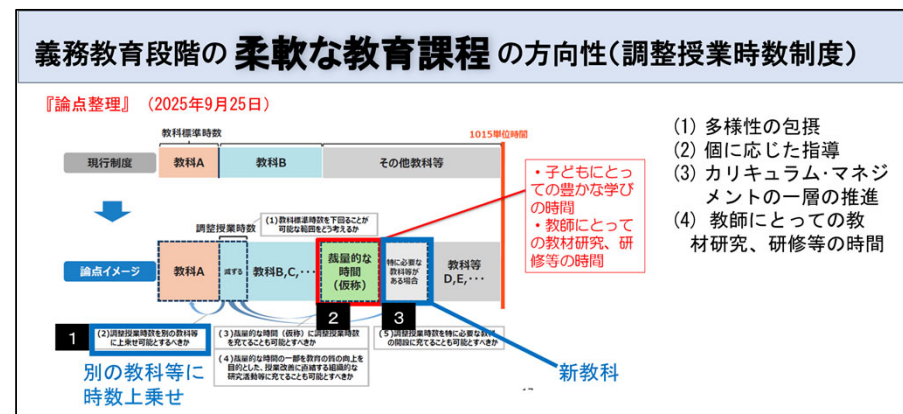
- もともと高校には、義務教育段階と異なり、学校設定の教科・科目、選択科目もあり、教育課程編成の自由度が高いという事情がある

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性(調整授業時数制度)



- 高校で示される柔軟な教育課程施策は、義務教育段階の「新教科」に相当する
 > 「授業時数上乗せ」 「裁量的な時間」
- とくに「多様性の包摂」課題は重要な取組となる
 → 不登校、障がい、外国籍、特異な能力等だけでなく、ある学校独自の事情を多様性として捉える(地域、能力など)

② 既存の各教科等の減単にあたっての要件はかなり厳格に規定されている。審議会の資料（下記）を参照のこと



『教育課程部会総則・評価特別部会』（令和8〔2026〕年2月19日）

https://www.mext.go.jp/content/20260220-mxt_kyoiku01-000047485_07.pdf

審議まとめの方向性

- ①「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか
- ②「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？
- ②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー
- ②補足Part2 現場の授業力に配慮して高次の資質・能力は評価せずー現実対応、それで現場は変わるか？
- ③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ
- ④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？
- ⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

